

# 地震防災技術普及小委員会の活動報告

地震工学委員会 2026年度 第1回研究会

2026.5.20

渡辺 和明

# 小委員会の概要



- 発 足:平成8年11月～(今年で29年目の活動)
- 委員構成:委員31名,顧問2名(2026年4月時点)

委員職名	氏名	勤務先名称
委員長	渡辺 和明	大成建設(株)
副委員長	大竹 省吾	(株)オリエンタルコンサルタンツ
幹事長	坂井 康伸	清水建設(株)
副幹事長	山口 直也	(株)エイト日本技術開発

委員職名	氏名	勤務先名称
WG1主査・幹事	黒田 武大	鹿島建設(株)
WG1副主査・幹事	倉橋 奨	愛知工業大学
委員	池田 隆明	長岡技術科学大学
委員	栗林 健太郎	(株)エイト日本技術開発
委員	穴倉 佳浩	大成建設(株)
委員	久末 賢一	(株)大林組
委員	福武 毅芳	(株)大崎総合研究所
委員	和田 一範	(公財)鉄道総合技術研究所
WG2主査・幹事	芳賀 堯	パシフィックコンサルタンツ(株)
WG2副主査・幹事	佐々木 智大	(株)大林組
委員	青地 知也	(株)開発工営社
委員	指田 朝久	東京海上ディーアール(株)
委員	佐藤 京	寒地土木研究所
委員	橋本 隆雄	国土舘大学
委員	濱野 雅裕	(株)エイト日本技術開発

委員職名	氏名	勤務先名称
WG3主査・幹事	眞野 基大	(株)エイト日本技術開発
WG3副主査・幹事	外木場 康将	(株)奥村組
委員	梅林 福太郎	(株)オリエンタルコンサルタンツ
委員	工藤 浩史	(株)ドーコン
委員	鋤田 泰子	神戸大学
委員	佐藤 清隆	
委員	中山 学	
委員	樋口 俊一	(株)大林組
委員	村田 晶	金沢大学
WG4主査・幹事	中村 晋	日本大学
WG4副主査・幹事	石丸 真	(一財)電力中央研究所
委員	大矢 陽介	国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所
顧問	木全 宏之	高圧ガス保安協会
顧問	後藤 洋三	



- 小委員会の活動目的

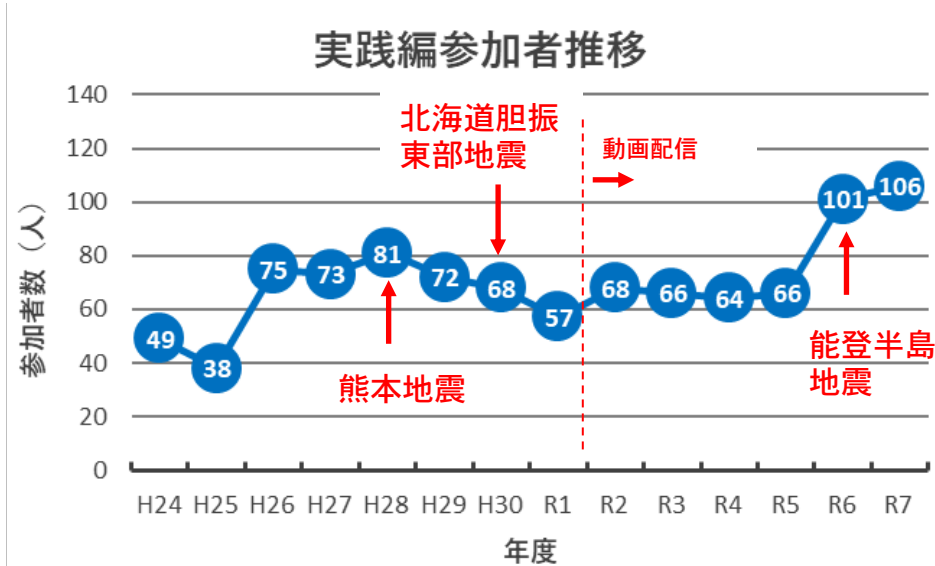
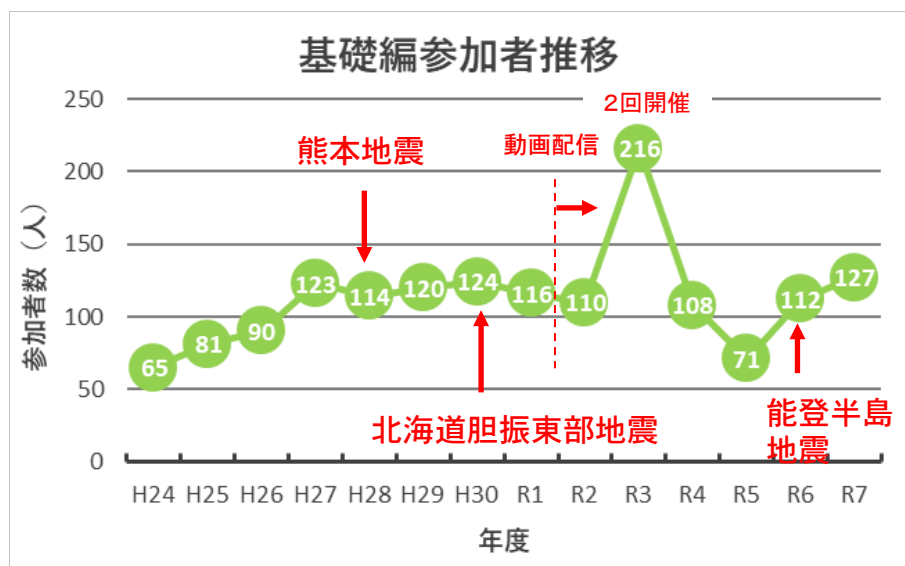
社会基盤施設の耐震性向上および地震防災性に優れた社会建設のために必要な知識・知見・思想,および調査・研究成果など地震防災技術を,土木学会会員を中心に広く普及させ,地震災害の軽減に貢献する

- 主要な活動内容(行事など)

- ・WG1:耐震設計入門セミナー等による耐震技術の普及
- ・WG2:地震災害マネジメントセミナーによる地震防災技術の普及
- ・WG3:地震防災技術懇話会,被災地視察会の開催
- ・WG4:地盤・構造物の非線形解析法の検証・妥当性確認の方法に関する技術普及



- 発足当時から継続実施している当小委員会の看板行事
- 平成19年度より、「基礎編」、「実践編」の2本立てで実施
  - ・基礎編:耐震設計業務経験の比較的浅い人向け
  - ・実践編:実務経験5年程度以上の人向け
- 令和5年度以降は,現地参加+Webのハイブリッド開催に加え,  
講義内容のVimeoによる映像配信も実施

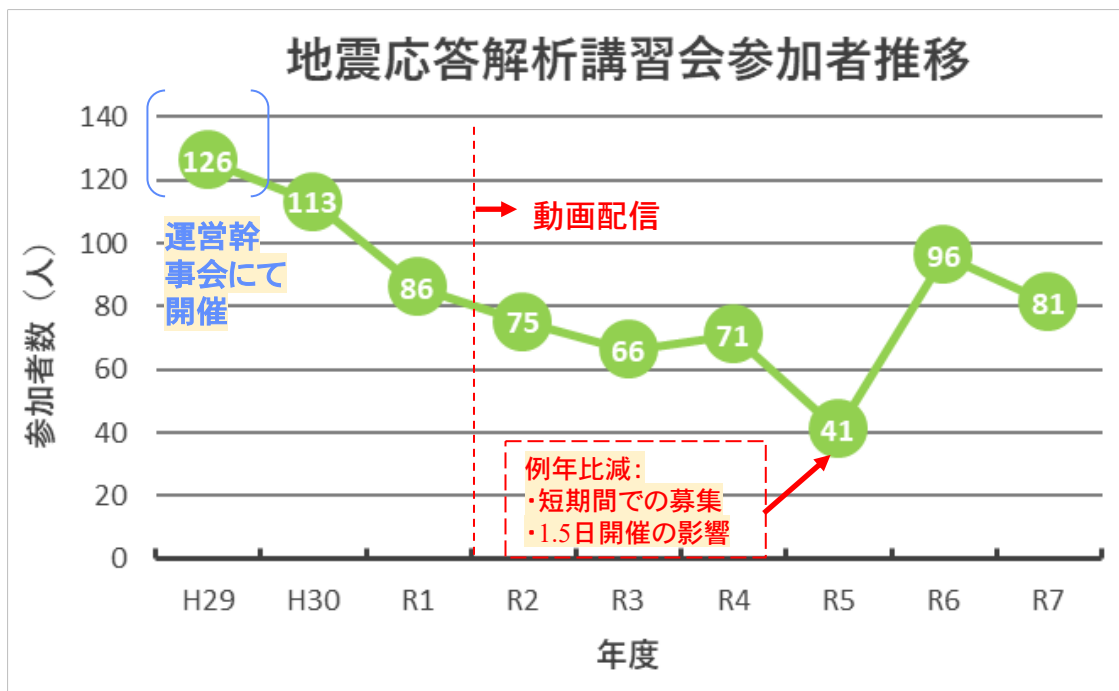


- 令和7年度は、基礎編**127名**、実践編**106名**の参加者
- 令和6年度は、能登半島地震の影響で基礎編、実践編とも参加者増
- Web配信は、特に初級者・遠隔地からの出席者に好評
- 令和8年度の基礎編を、**7月17日(金)**にハイブリッドで開催予定

# WG1:「地盤の地震応答解析」の講習会



- 地盤の地震応答解析に特化した実務者向けの講習会(吉田 望先生)
- 平成30年度より当小委員会が担当(夏あるいは秋)
- 令和7年度は,81名の参加者
- 安定した人気講習会(毎年,70名前後の参加者)

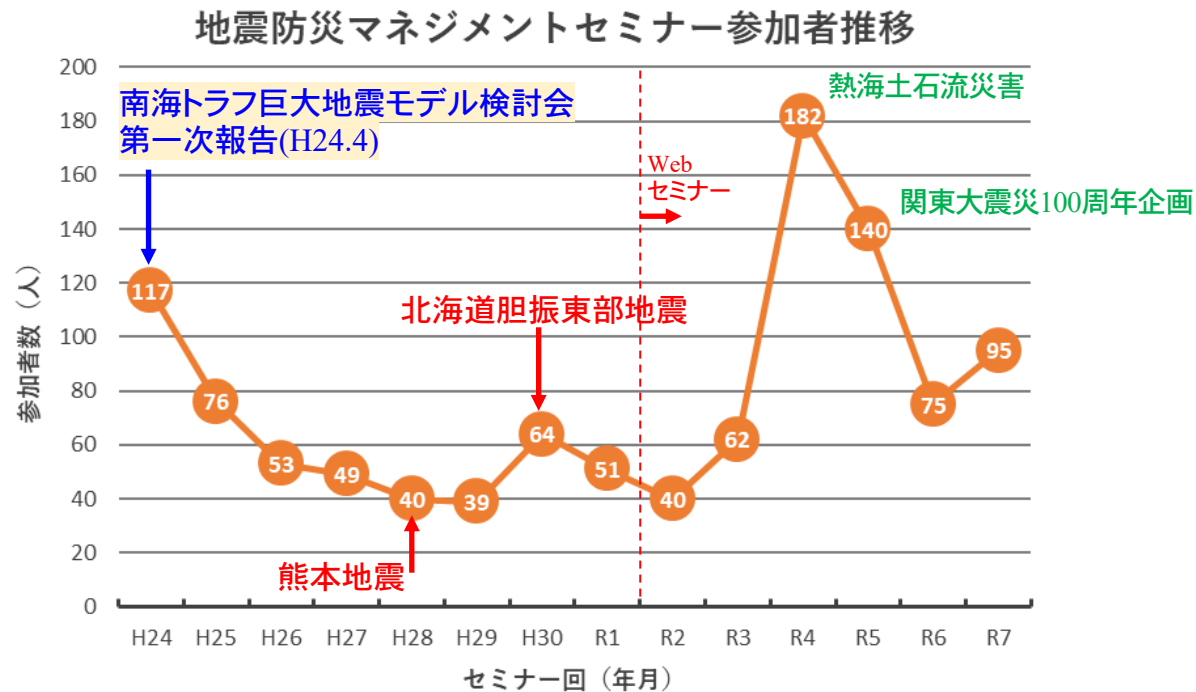




- 平成11年2月の第1回以降,ほぼ毎年継続的に実施
- 令和4年度以降は,現地参加に加えオンラインも併用で実施

開催回	開催年月	テーマ
13	H25. 12	南海トラフの巨大地震に向けた津波への備えと課題
14	H26. 12	首都直下地震・想定される被害と防災・減災への取り組み
15	H28. 1	地震防災と先端技術
16	H28. 11	熊本地震で見えてきた課題と今後の展望
17	H30. 1	復興活動から考える減災・防災
18	H30. 11	大都市に潜む震災要因と求められる対策 -液状化や津波に着目して
19	R1. 11	我が国の地震防災を支える高度解析技術— シミュレーション技術の最前線
20	R2. 10	複合災害に備える - 地震, 豪雨, 火山噴火などによる重畳災害に備えて - (オンライン開催)
21	R3. 11	首都圏直下地震及び南海トラフ巨大地震に備えた事前復興 — 東日本大震災から学び災害前から復興を検討する— (オンライン開催)
22	R4. 11	盛土規制法と防災対策 — 熱海の土石流災害の教訓から危険な盛土を強靱化する— (ハイブリッド開催)
23	R5. 5	関東大震災の教訓と迫りくる首都直下地震に備えた準備と対策— 関東大震災から100年、想定外と言わないための再検証— (ハイブリッド開催)
24	R6. 11	2024年能登半島地震における復旧・復興対策の最前線 — 能登半島地震の復旧・復興の現状と課題は何なのか? — (ハイブリッド開催)
25	R8. 1	南海トラフ地震の被害想定の見直しと防災・減災 (ハイブリッド開催)

# WG2:地震災害マネジメントセミナー

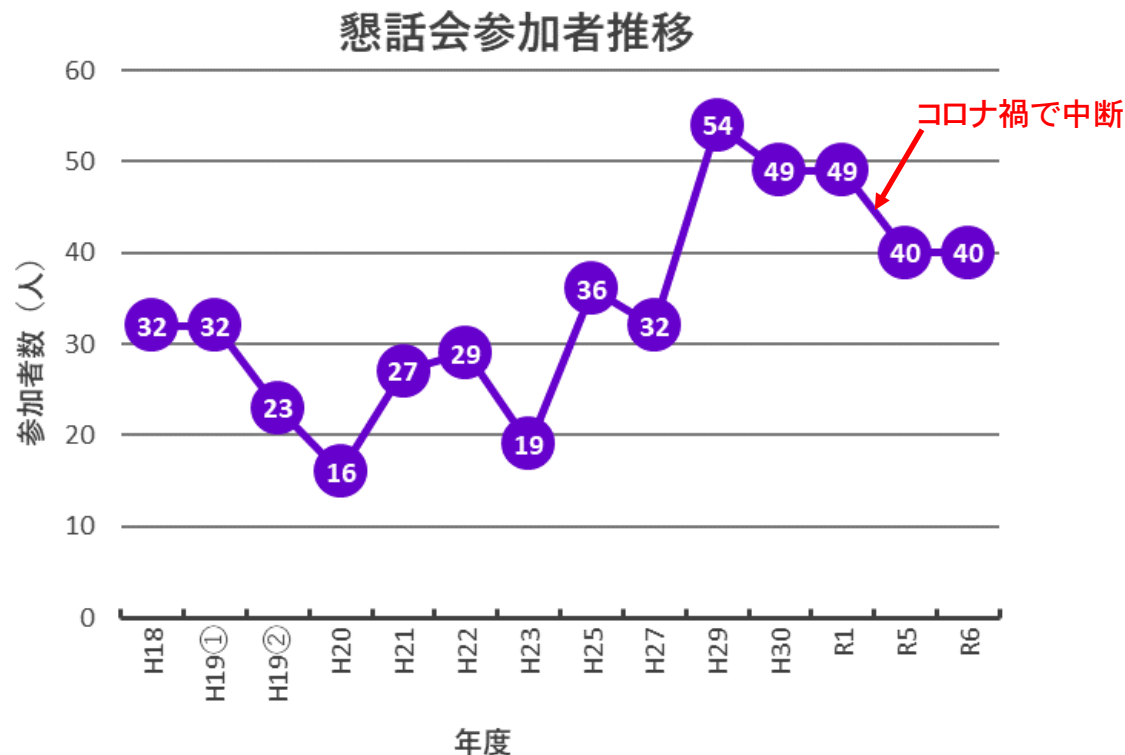


- 国(内閣府等)の動き,社会情勢を踏まえた内容で企画
- 集客に苦戦した年度もあるが,オンラインor 併用により一定数の参加者を保持
- 令和7年度は,関心の高い南海トラフ関連の企画で参加者増(95名)

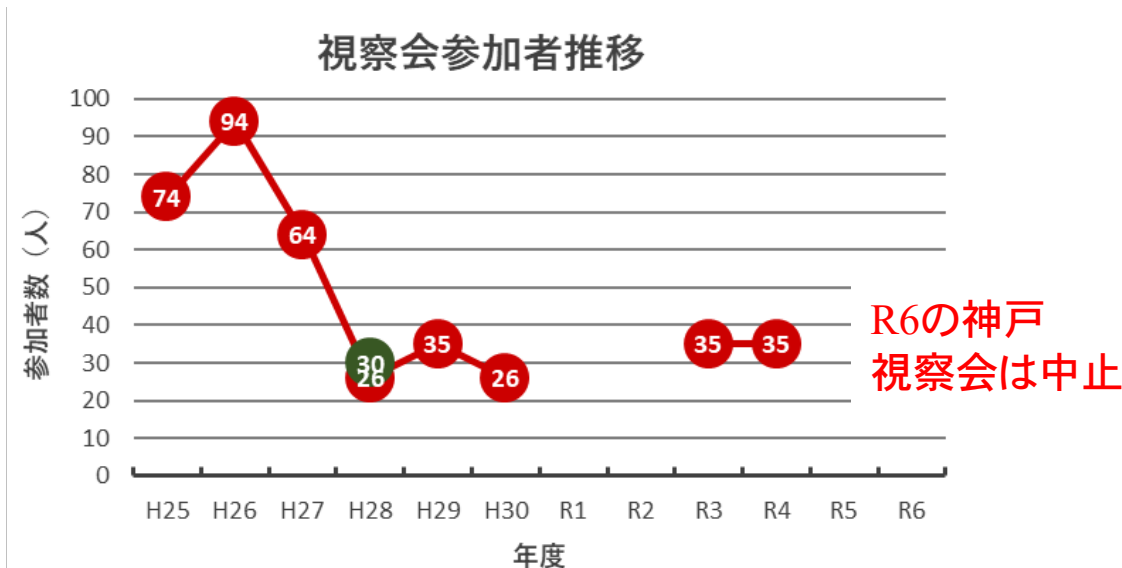


- 国内外の地震防災分野における著名な先生方に講師依頼
- 先生を囲う会議形式を原則.昔の苦勞話など,平易で肩の凝らない講演内容
- 昨年度(令和7年度)は開催せず

開催回	講師	開催年月	講演タイトル
1	George Gazetas 先生	H14. 5	杭の動的相互作用問題
2	伯野 元彦 先生	H14. 12	震害から学ぶ
3	吉見 吉昭 先生	H15. 4	地震地盤工学における設計マニュアルの功罪
4	田中 貞二 先生	H15. 6	常時微動から強震動へ ー研究の思い出話、こぼれ話ー
5	武田 寿一 博士	H15. 12	高層鉄筋コンクリート構造物の耐震設計 ー武田モデルの誕生ー
6	石原 研而 先生	H16. 4	地盤と基礎の被害とその考察
7	山田 善一 先生	H16. 8	地震工学・構造工学に関わって ー私の履歴書七十五年ー
8	田村 重四郎 先生	H17. 9	1995年兵庫県南部地震での第一次提言提案の頃
9	野上 仁昭 先生	H18. 11	米国での長年の研究生活を振り返る:人生様々
10	片山 恒雄 先生	H19. 9	国際交流 ー私の経験からー
11	星谷 勝 先生	H20. 2	リスクマネジメントにおける地震防災投資効果の評価技術
12	和泉 正哲 先生	H21. 1	将来を見据えて
13	土岐 憲三 先生	H21. 11	地震防災と文化遺産
14	篠塚 正宣 先生	H22. 10	都市インフラの地震災害リスク
15	亀田 弘行 先生	H23. 12	温故知新 ー地震防災技術の変遷からー
16	大町 達夫 先生	H25. 11	直下地震工学序説
17	濱田 政則 先生	H27. 12	液状化地盤の流動研究と実践
18	西村 昭彦 博士	H29. 6	構造物の耐震設計と補強(被害を鑑みて)
19	岩楯 徹広 先生	H30. 6	温故知新「私の研究・教育人生」
20	家村 浩和 先生	R1. 11	免震制振技術を応用した長大橋の耐震補強
21	高田 至郎 先生	R6. 2	「ライフライン防災」に取り組んだ60年
22	藤野 陽三 先生	R7. 2	「Preparing for the Unexpected」



- 最近は概ね40名～50名程度で推移
- 平成29年以降は,本部行事として実施(参加無料)
- 懇話会后,講師を交えた歓談の場も設けている(参加は任意)



- 震災学習として、現地で復旧状況を直接見て、雰囲気を感じて提供
  - 平成17年度より神戸,平成24年度より東北,平成29～30年度は熊本訪問
  - 参加者は概ね30～40名で推移
  - 令和3～4年度は,復旧状況に関するWebセミナーを開催
  - 令和6年度は,参加人数が少なく神戸の視察会を中止
  - 令和7年度は,企画準備として小委員会メンバーで能登半島の被災地を視察
- ⇒ **令和8年度に,能登半島の被災地視察会を開催予定(10/16)**

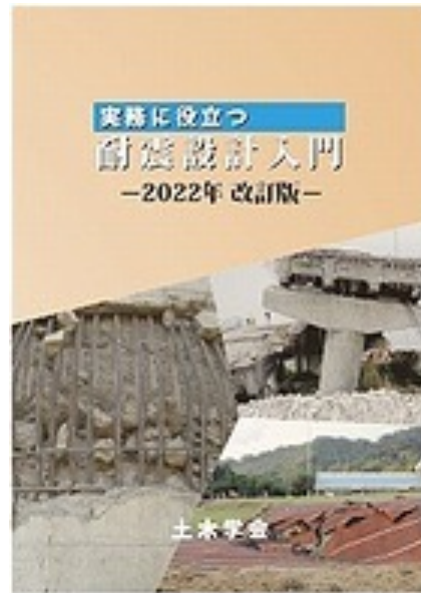


- 研究小委員会(令和3年度終了)の成果に関わる技術普及
  - 令和4年度より, WG4を立ち上げて活動
    - ・令和6年10月, Webにて講習会開催(参加者52名)
    - ・講習会終了時点の書籍販売数582部(売上目標564部をクリアー)
    - ・講習会は, 令和6年度で終了
    - ・令和8年度の活動予定
- 「地盤・構造物の非線形解析法の検証と妥当性確認の方法  
-ガイドラインとその実践事例-」の第2版とその英文版  
(土木学会Web公開)

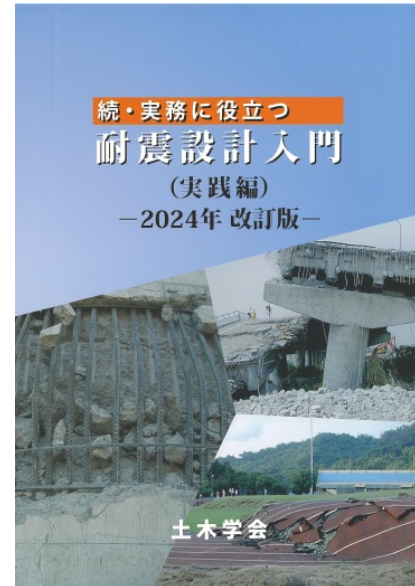


## 耐震設計入門セミナーのテキストを出版

- ・基礎編(平成22年度～):累計販売 **3,769部**(R7;118部)  
令和4年7月に改訂版を出版
- ・実践編(平成26年度～):累計販売 **1,904部**(R7;210部)  
令和6年11月改訂版を出版



基礎編用:定価¥3,370(会員価格)



実践編用:定価¥4,460(会員価格)



ご清聴ありがとうございます  
ございました